

第5回砺波市立学校のあり方検討委員会 議事録（概要）

- 1 開催日時 令和3年11月22日（月） 午後1時00分～午後4時15分
- 2 開催場所 高岡市立国吉義務教育学校、砺波市役所第9会議室
- 3 視察出席委員の氏名（50音順 敬称略）
井上 五三男、久保田 晃克、笹田 茂樹、竹山 美紀、丹羽 範夫、樋掛 恵美、廣瀬 敬一、
藤井 法子、藪 道子、吉田 快、吉田 直人
- 4 視察欠席委員の氏名（50音順 敬称略）
金平 正、高田 治生
- 5 議事出席委員の氏名（50音順 敬称略）
久保田 晃克、笹田 茂樹、竹山 美紀、丹羽 範夫、樋掛 恵美、廣瀬 敬一、藤井 法子、
藪 道子、吉田 快、吉田 直人
- 6 議事欠席委員の氏名（50音順 敬称略）
井上 五三男、金平 正、高田 治生
- 7 事務局の氏名
白江 勉（教育長）、構 富士雄（事務局長）、河合 実（教育総務課長）、
肥田 啓生（教育総務課主幹）、小谷内 智信（教育総務課主幹）、片山 智遥（教育総務課主事）
- 8 視察同行者の氏名（50音順 敬称略）
小櫻 豊人（教育委員）、齋藤 正樹（教育委員）
- 9 議事傍聴者の氏名（50音順 敬称略）
小櫻 豊人（教育委員）

10 委員会次第

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 開会2 高岡市立国吉義務教育学校視察<ol style="list-style-type: none">(1) 高岡市立国吉義務教育学校の紹介(2) 校舎見学(3) 学校概況について(4) 視察事項（事前質問）に対する説明及び回答(5) 質疑応答3 委員長あいさつ4 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 学校視察内容について(2) その他5 閉会 |
|--|

1.1 委員会の要旨

- ・高岡市立国吉義務教育学校視察（午後1時30分～午後3時15分）
- ・議事（午後3時45分～午後4時15分）

委員長 <あいさつ>

議長 規定に従いまして、私の方で議事を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事（1）学校視察内容について、感じたことなどをお聞かせいただきたいのですが、いかがでしょうか。

各委員意見
（要旨）

・義務教育学校のメリットを多く聞いたが、砺波市でということ考えた場合に、地域の状況や人口の推移など、実態に応じてどのような形態がよいのか考えなければならぬ。

・大規模の義務教育学校のことはわからなかった。

・国吉の場合は、隣同士に小学校と中学校があったというのが大きい。

・庄東小と般若中、庄川小と庄川中を思い浮かべながら話を聞いていた。デメリットとしては人間関係の固定化があり、同じ人としか交流しないという問題があったが、義務教育学校は学年が多いという点で交流する人間は少し増える。そのことによる学びはあるのではないかと感じた。

・本市には校舎が隣接する学校はないが、義務教育学校が一つくらいあってもいいのではないかと感じた。

・メリットが多かったという印象。デメリットについても今後出てくると思うので、そちらももう少し聞きたかった。

・本市で義務教育学校を想定する場合、色々と問題があると思う。国吉が義務教育学校をつくりやすい地域だったということを感じた。

・義務教育学校は1年生から9年生までが一緒にいるため、通常では交流できない児童生徒がふれあうことができるというのは他にないメリットと感じた。

・課題については、地域との連携は調整が必要だと感じた。

・高岡市全体について、子どもたちがやりたいスポーツをできるという環境が砺波市よりも進んでいると感じた。合同チームなどによって子どもたちがやりたいスポーツができる環境を整えばよいと感じた。

・前期課程と後期課程がうまくつながるような施設となっていた。

・小学校5・6年生の教科担任制が取り入れやすいと感じた。また、部活動が小学生から参加できるということも実施しており、様々な工夫をされ、「中1ギャップ」に効果があると感じた。

・学校の適正な学級数から考えると、1学年に最低2学級ないとクラス編成もなく、刺激や切磋琢磨という点では少し物足りないと思う。やはり1学年に2学級あるとよい。

・小学校と中学校を一本化することによってのメリットがあまり感じられなかった。中学生にとって小学生が身近にいる環境で学ぶことが本当によいことなのか微妙であるし、生徒指導上も様々な面で違いがあると思う。今後の児童生徒数の人数の推移を考えると、まだ課題もあると思う。学校運営については、よく一つにまとめ上げられ、素晴らしいと思った。

・後期課程の生徒にとっての学習面においては、メリットが大きくなったとは思えなかった。

・このあり方検討委員会の学校の適正規模・適正配置について議論するという趣旨

から考えると、義務教育学校は難しいのではないかと感じた。

・クラス替えができないというのも、大きな課題ではないかと思う。

議長

義務教育学校のメリットを感じられた方もいれば、さほどでもないと感じられた方がおられる。学校の規模から考えて砺波市の規模でできるのかどうか。砺波市には同じ敷地内に小中学校があるところがないが、そこをどう考えていくかというのもこの委員会の課題である。

上級生の視線が優しくなったというのは、教育効果的によいのではないかと思う。

事務局

<議事(2)その他について 説明>

※第6回委員会を2月に開催することを確認

教育総務課長

次回の委員会について、第6回委員会は2月頃を予定しています。

それでは、閉会にあたりまして、教育長からご挨拶申し上げます。

教育長

<閉会あいさつ>

委員の皆さんの意見をお聞きしながら、刺激という言葉の思い浮かべました。子どもたちにとってどのような教育環境が刺激があるのか。話の中でも出た上級生の優しい笑顔であったり、複数級で刺激があったりなど、子どもたちにとって一番よい教育環境を考えていかなければならないと思います。

国吉義務教育学校長が、小学校長会と中学校長会両方に参加するなど、教員自身も刺激を受けているという話もありました。義務教育学校はさておき、改めて小中連携という刺激を教員自身も受けること、そしてそれが子どもに伝わるこれがこれからの学校のあり方にもつながるのではないかと感じました。

本日はどうもありがとうございました。

教育総務課長

以上をもちまして、第5回の委員会を終了させていただきます。